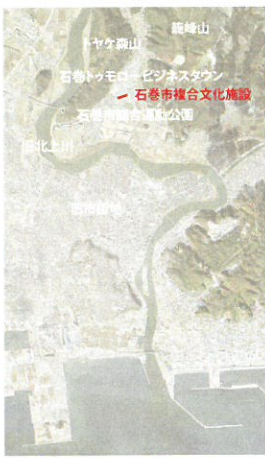


1. ホール・生涯学習機能	合計	7,547㎡
a) 大ホール	計	3,036㎡
b) 小ホール	計	1,087㎡
c) ホール共用バックヤード	計	863㎡
d) 生涯学習	計	1,030㎡
e) ホール・生涯学習共有	計	1,531㎡
2. 博物館機能	合計	2,373㎡
a) 展示	計	1,352㎡
b) 収蔵・調査研究	計	636㎡
c) 教育普及	計	50㎡
d) 博物館共有	計	335㎡
3. 共有・管理・その他機能	合計	3,128㎡
a) 共有	計	1,333㎡
b) 管理・その他	計	1,795㎡
延床面積	合計	13,048㎡

旧市街地の復興を見守る新しいシンボル

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の巨大な津波は、石巻市に壊滅的な被害をもたらした。急ピッチで工事は進み、徐々に新しいまちの表情が芽吹きつつあります。

本計画では、市内を拠点に継続的に活動を続けている方や他地域へ移っていった方の新しい文化活動拠点としては勿論、新市街地において復興のシンボル、新しい街づくりに寄与する施設を目指します。



石巻の歴史を継承した新しい街のシンボル

旧北上川に沿って三角屋根の建物が立ち並ぶ昭和初期の風景は、石巻市の発展を象徴する歴史的な風景です。この象徴的な石巻市の風景を継承しつつ、市民の方々にとって愛着のもてる、気軽に集うことのできる、新しい石巻市のシンボルを目指します。



周辺スケールと調和するヴォリューム配置

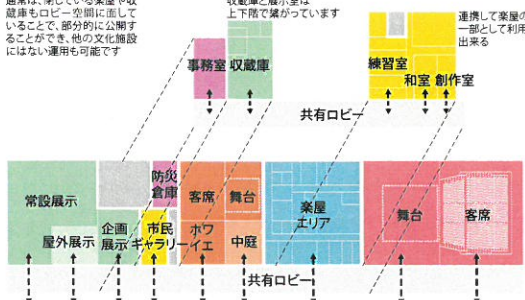
巨大なヴォリュームとなるホールを西側の低層住宅地区から距離をとって配置し、西側は1層のヴォリュームとし圧迫感を軽減します。



全てのプログラムが開かれた新しい複合文化施設

ホール機能、美術館機能を中心に、楽屋や収蔵庫など、通常バックヤードとして扱われるプログラムを閉じずに部分的に開放することで、新しい開かれた複合施設を提案します。

それぞれのプログラムが共有ロビーに向かって開くことで、複合することの魅力を最大限活かすことができます。異なる活動が共有ロビーに向かって展開することで、様々な出会いや発想も生まれます。



気軽に石巻の歴史や文化活動に触れ合える場所となることで、市民の方々に広く開かれ賑わいをもたらします。今後の石巻の文化活動の拠点として地域の核になる場所を目指します。

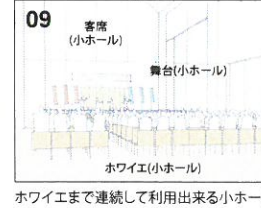
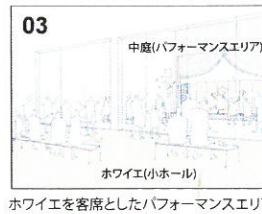
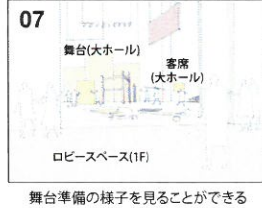
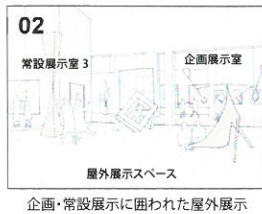
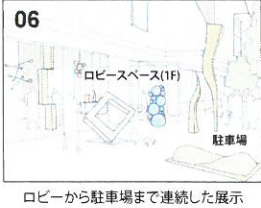
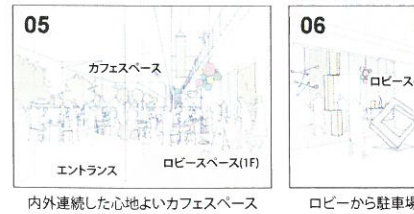
地区の全体計画と調和する外構計画

石巻トットモロビジネスタウンの全体計画との調和をはかるため、緑地帯を設け、外周部分と駐車場を中心に積極的に緑化を行います。



様々な活動と出会い

開放的なロビー空間は様々な活動や情報にめぐり合うことができます。使い方によって様々な催しに対応可能です。普段は見れない舞台セットを組み立て、楽屋を利用する演者との交流、演劇や展示、発表の場だけでなくその間にある過程を垣間見ることのできる他にない新しい文化施設となります。



多様な使い方の出来る小ホール

